



KPUNews



2009年年頭挨拶

—今年取り組むテーマ・新たな決意を込めて—

理事長 田村 正昭

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

新しい年を迎え、京都薬科大学関係者の皆様の益々のご健勝を祈念し、心からお慶びを申し上げます。

昨年は、サブプライムローンに始まるアメリカ発の金融危機が、全世界を駆け巡り、わが国もその渦中に巻き込まれ、政治・経済ともに大混迷の中で年を越し新年を迎えました。

アメリカでは、「変革」を訴えた、民主党のバラク・オバマ氏が国民の圧倒的な支持を受け、1776年の建国以来、初めての黒人大統領が誕生することとなり、正に世の変化を予兆させるできごともありました。

このような乱気流の時代にあつては、「変化」が当たり前の事でありまして、「変革」を成し遂げなければ、生き残ることさえ難しい時代に身を曝していることを改めて自覚しなければなりません。「変革」や「改革」には、痛みを伴うこともあり、悪戦苦闘を強いられることもあります。しかし、これらの痛みや、苦しみは、我々だけが直面しているわけではなく、各大学も同じ苦しみや悩みを抱えつつ、

懸命に改革に取り組んでいることを、認識しなければなりません。

本学が生き残る道は、「薬学教育の更なる充実」「研究活動の高度化」「学生のレベル向上」に掛かっております。これを実現させるためには、個々人の創意工夫と、ひた向きの努力に掛かっております。

前期の卒業式でも、申しましたが「天は自ら助くるものを助く」この言葉に込められていますように、自らの道は自分で切り拓いて行く精神を大切にしたいものです。社会が悪い、人がいない、誰かが何とかしてくれるだろうと言った考えでは、何事も成就しないことを自覚しなければなりません。京都薬科大学の更なる発展に向け他大学に先んじて、あらゆる改革に教職員の皆様が一体となって、取り組んでいただくよう熱望いたします。

CONTENTS

2009年年頭挨拶

—今年取り組むテーマ・新たな決意を込めて—

理事長 田村 正昭……………1～2

新たな年2009年を迎えて 学 長 西野 武志……………3

新任のご挨拶……………4

特集 京薬祭2008を終えて……………5～8

ドイツ滞在記……………9～11

秋のオープンキャンパス開催……………12

2008年度後期試験日程……………13

定期試験合格発表方法および

進級・卒業査定結果発表方法変更のお知らせ……………13

教育後援会からのお知らせ……………14

Library News……………15

受賞・掲載……………16～18

クラブだより……………18

お知らせ……………18～19

京薬会だより……………19

奨学金制度充実のための寄附のお願い……………20

以下に今年度の重点目標を示しますので、ご理解とご協力をお願いします。

躬行プラン（2007年～2011年中期計画）の推進

P.Fドラッカーは、有能な人たちが取り組んでくれて、はじめてプランは成果をあげる。そのような取り組みがなければ、口約束と目論見にすぎず、プランとは言えない。仕事は、責任、期限、フィードバックをとまなうものである。仕事の成果を評価するための基準を明確に示し、成果の期限を明らかにすることにあると述べております。

これに照らして、「躬行プラン」の進捗状況等につきまして、点検いたしました。遅滞しているテーマや課題も浮き彫りになりました。

今後、「中期計画策定委員」の意見を聴き、学長との協議を踏まえ、経営推進会議に諮り、見直すべきは見直し、足らざるは補い、早急に改善策を策定します。

教職員の皆様に再度説明の機会を設け、「躬行プラン」に対しましての理解を更に深めて頂いた上で、P（計画）D（実施）C（監視）A（改善）サイクルを全教職員が参加し円滑に回転させるため、学長と共に陣頭に立って推進して参ります。

施設の改善と充実

学生の皆さんが使用する施設の整備が焦眉の急となっております。2010年には学生数が増加しますので、新学舎「躬行館」は2010年2月には竣工させねばなりません。この期限に向けまして、これから急ピッチで工事が進められます。この間、学生の皆さんにはご不便を掛けますが、ご理解とご協力をお願いいたします。「躬行館」は、図書館、講義室、実習室、研究室、食堂に使用されます。

並行しまして、体育館の床の全面張替え、側壁の修理等を含めた塗り替え、グラウンドの部分整備等を今年度中に終え、学生生活を少しでも快適に過ごすことができますよう、環境整備に取り組みます。

学生各位への期待

先ずは眼前の壁ともいえる、卒業試験、薬剤師国家試験に向けて、全エネルギーを傾注し、見事合格し突破されんことを期待します。

4年制学部を卒業される皆さん、社会に出られ何か困った事があれば、何時でも遠慮なく大学を訪ねて下さい。京都薬科大学は、貴方たちの生涯応援団であり続けることを約束いたします。

6年制学部の皆さん、これから先長い期間、勉学に対するモチベーションを如何に保ち、日々研鑽に取り組むかが将来を決定付けます。共用試験のCBT、OSCEをクリアし、病院・保険薬局での長期実務実習を通じて、臨床現場での薬剤師に必要な知識、技

能、態度を身につけるとともに倫理観の涵養が求められています。

6年間貴方たちを物心両面にわたって、支えてくれている全ての人に感謝しつつ学生生活を過ごされることを切望いたします。

薬のプロフェッショナルを目指して

昨今、医療の提供問題で医師の人的不足が、マスコミで取り上げられることが多くなりました。また、NHKの「クローズアップ現代」では、「高齢者における薬物療法・副作用問題」が取り上げられ、日・米の薬剤師の比較がされていました。

私たち、医療の担い手として医療に参画している薬剤師が、薬物療法、適正使用、安全対策などで、貢献できる分野は数多くあります。

それには、薬の向うに患者さんがおられることを念頭に置き、薬学の研究・勉学に日々研鑽努力を積み重ね、その結果として医師、看護師さん初め患者さんまでの、全ての人から、薬のプロフェッショナルとして、信頼され尊敬される薬剤師を目指して取り組むことを、今年一年の目標としようではありませんか。

皆さんの今年一年のご活躍を期待し、挨拶いたします。

2009年度一般公募制推薦入学試験結果

2009年度一般公募制推薦入学試験が2008年11月15日（土）に実施され、11月21日（金）に合格発表が行なわれました。その結果は次のとおりです。

	募集人員	志願者数	合格者数
一般公募制推薦	83名	366名	101名





新たな年2009年を迎えて

学長 西野 武志

明けましておめでとうございます。2009年を迎えて新たな計画や目標を設定され、希望あふれる正月を過ごされたことと思います。

ところで、今年は「進化論」を唱えたチャールズ・ダーウィンの生誕200年で、彼の代表的著書「種の起源」出版150年になる。すなわち、ダーウィンは「自然選択」を進化の要因として捉え、進化論を発表したが、この着想はビーグル号による5年間の航海によることが知られている。特にガラパゴス諸島での滞在で、ゾウガメの様々な変種が諸島のあちこちに分布していることをガラパゴス総督から教えられ、ゾウガメは甲羅の形により容易に「ドーム型」と「鞍型」2つに分類できることを知った。そして「ドーム型」は、餌となる草が豊富に生えている島で繁殖し、甲羅が全体的に丸みを帯びており、一方「鞍型」は、草が少なくサボテンが生えている島で繁殖し、首を持ち上げてサボテンを食べるために、首周りの甲羅が反り返り「鞍型」になっていると推察した。また、フィンチという鳥のくちばしの形が、それぞれ食べる餌の違いに対応しており、大きな硬い実をついばむ種類のくちばしは頑丈であるのに、小さな実を食べる鳥は細くて弱々しいことを観察している。このような観察結果からダーウィンは、ガラパゴス諸島の各島に住み着いた生物は、それぞれの島の環境に適応（自然選択）して、長年にわたり進化し、その姿を変えていったと考察した（進化論）。

一般的に生物は生息している環境の変化が起これば、今まで生息してきた環境と同じような場所に移動するかあるいは変化した環境に適応できるように進化して絶滅を逃れる。同じ鳥でもダーウィフィンチ類は進化を遂げて環境に適応したと考えられ、立山など標高2,400メートル以上の中部山岳の高山に生息している雷鳥は移動することにより絶滅を逃れてきたと思われる。しかし、雷鳥は冬には身体全体が白くなり、天敵のキツネ、ワシやタカなどによる捕食から逃れている。この雷鳥の冬場の色の変化は、昆虫などで知られている擬態の一種とも考えられるが、これも進化であるとも考察される？

ダーウィンは長年にわたる前述した生物の観察から、次の含蓄ある言葉

生き残る種とは、
最も強いものではなく、
最も知的なものでもない。
それは変化に
最も適応したものである。

を残したと言われている。この言葉は我々の日常生活にも当てはまるように思われ、薬学が6年制になった今、より早く4年制から6年制に対応した方がよいことを示唆しているのかも知れない。

第94回薬剤師国家試験

第94回薬剤師国家試験は、次のとおり実施されます。

試験期日	2009（平成21）年3月7日（土） 3月8日（日）
試験地	北海道 宮城県 東京都 石川県 愛知県 大阪府 広島県 徳島県 福岡県
試験科目	(1) 基礎薬学 (2) 医療薬学 (3) 衛生薬学 (4) 薬事関係法規及び薬事関係制度
合格発表	2009(平成21)年4月3日（金）午後2時

2008年度動物慰霊祭

11月5日（水）午後2時から動物慰霊祭を、学内の慰霊碑前において執り行いました。

当日は天候にも恵まれ、当麻寺の増田宗雄住職の読経の中、田村理事長、西野学長、高田動物研究センター長をはじめ教職員、また多くの学生が次々と焼香をし、日頃教育・研究に貢献をした多くの動物達に感謝と慰霊の念をこめ、冥福を祈りました。

新任のご挨拶



医療薬科学系 臨床薬学分野

教授 西口 工司

平成20年10月1日付で横山照由先生の後任として臨床薬学分野（旧病院薬学分野）の教授を担当させていただくこととなりました。私は、平成元年に本学を卒業後、本学大学院修士課程（旧病院薬学教室）に進学いたしました。同年10月より神戸大学医学部附属病院薬剤部に研修でお世話になりましたことがきっかけで、前薬剤部長 奥村勝彦先生からお誘いいただき、平成3年より薬剤師（文部技官）として勤務することとなりました。以来、約18年間、大学病院の薬剤師として診療、教育、研究に従事し、副薬剤部長・准教授を経て、このたび母校で教鞭をとらせていただく機会を与えていただきました。母校とは申しまして、学生時代に親しんだ当時の大学ホール（通称：ナビオ）や学生食堂などの建物は消

え、当時とは少々異なる学内の雰囲気を感じております。

さて、本年は、薬学教育6年制の1期生が4年次生となり、いよいよ医療系専門科目の講義や実習を中心に学習する時期であります。今後、学生諸君が、どのような進路を選ばれるにしろ、薬剤師として直接的または間接的に医療にかかわることについて疑う余地はございません。この時期に医療人である薬剤師に必要な知識、技能、態度の基礎をしっかりと築いてもらえるよう、また研究を通じて科学的、論理的な物事の捉え方を学んでいただきたいと願っております。学生諸君の成長を支えることが私も教員の役割であると考えておりますし、学生諸君とともに歩み、成長することができればこの上ない幸せであります。

もとより微力でございますが、本学ならびに社会のために貢献できるよう精一杯の努力をいたす所存でございますので、皆様からのご指導ならびにご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、皆様のご健康とご多幸をお祈りし、本年が実り多き素晴らしい年になりますことを心から祈念申し上げます。

「卒業生からのメッセージ」 見聞を広めよう



大南 英雄

平成12年 製薬化学科（生薬学分野）卒業
平成14年 修士課程（ ）修了
花王株式会社 研究開発部門 生物科学研究所所属

皆さん、初めまして。

私は学部・修士課程ともに生薬学分野に在籍し、修了後現在の会社に入社いたしました。配属された部署は、化粧品や香粧品に配合する植物エキスや、健康食品素材の有効成分探索を業務とする、いわゆる基盤研究を行う部署でした。入社して6年、現在に至るまで同研究室に在籍し、食品素材および有効成分の探索業務に携わっております。大学の研究室に在籍していた頃から、“食”による健康を手がけたいという希望があったので、現在の業務には熱意を持って取り組んでおります。

現在の部署に配属されてすぐの頃は、有効成分の探索と言うミッションこそ学部・修士の頃と変わりはありませんでしたが、実験機器・設備などが全く異

なるため思うように業務が進められず、一から勉強しなおすつもりで取り組んできました。そんななか、勉強以外に学生時代に身につけたことが、非常に役に立ったことが何度もありました。弊社のような多くの分野で事業を展開している企業となると、様々な分野を専門とする研究者がいるわけですが、そういった人たちと共に円滑に業務を推進していくために、社会人としての最低限の常識・知識・礼儀などは当然のことながら、授業では学ぶことの無かった知識、これまで体験してきた課外活動・読書量などがむしろ、手助けとなりました。

さてここで皆さんにお伝えしておきたいのは、これまでたくさんの卒業生の方々からも同じメッセージを受け取っていることかと思いますが、大学に在籍中にできるだけたくさんを経験して欲しいということです。大学時代を振り返ってみると、クラブ活動や課外活動など、結構様々なことにチャレンジしたつもりでしたが、社会に出てから、もっとこんなことをしておけばよかった！こんな分野を勉強しておけばよかった！と思うことがたびたびあります。皆さんが歩んでゆかれる方面は人によって多少異なってくるとはと思いますが、人と一緒に仕事をしていくのは間違いありません。そのとき自分にはどんなバックグラウンドがあるか、その大きさで、社会人としての人生がさらに楽しくなっていくと思います。皆さんが、悔いの無い学生生活を送り、社会に出て、“京薬大”を卒業して良かった！と心から思えるよう願っております。

特 集

京葉祭2008を終えて・・・

学生諸君がここそこでダンスの練習を始めるのを見ると、京葉祭が近づいたなあと感じる方々も多いことでしょう。今回の特集では、2008年度の京葉祭実行委員長、文化部長そして実行委員の中から2名、計4名の学生さんに学園祭を企画し実行した者として、京葉祭が終わった今だからこそ言える苦勞と喜びを語ってもらいました。

約1年前から始まる企画そして具体的な準備の過程で「心身共に限界を感じ」つつも「いろんな人に支えられ」また「人間関係について多くのことを学び」ながら努力を重ね、ついに学園祭を成功裏に終わらせることで「達成感や満足感」を味わうと言う多くの仲間達と分け合ったその苦勞と喜びの気持ち、文章の至る所に満ちあふれています。

彼らが感得した何よりも貴重なものは、人は一人で生きているのではないと言うしみじみとした思いと学友、教職員、父母兄弟そして近隣住民という多くの人々に対する感謝の念ではないでしょうか。彼らのその思いを読み取って頂ければ、幸いです。

京葉祭2008を終えて・・・

京葉祭実行委員長 3年次生 平良 勇祐

京葉祭実行委員会に入って3年目、実行委員長として迎えるということもあり京葉祭2008は特別な思いがありました。この3日間の成功のために去年の学祭が終わった頃から準備していたことを思えば、なんて長い間このことを考えていたのだろうと思います。この1年間は何かにつけて色々なことを学園祭のことと結びつけこの日の成功のことだけを考えてきました。後期が始まり実行委員が本格的に活動を始めだすと夜ごとに仕事に追われる夢ばかりみて自暴自棄になりそうな日もありましたが、そういう時は部活で発散したり休日外食するなどして自分をコントロールしました。学祭が近づくにつれて無性に当日の天気ばかりが気になり、毎朝天気予報をチェックしていました。一時は40%あった降水確率が日がたつにつれ30%、20%、と最後には10%にまで下がり学祭の成功を確信しました。仕事とレポート提出などが重なり心身共に限界を感じる日々もありましたが、そうして迎えた京葉祭が無事に終わり成功した時は20年間感じ得なかった程の達成感や満足感、充実感でいっぱいでした。工事などの関係で初めてづくしの京葉祭の成功に向けてゼロから一緒に学祭全体のことで悩んでくれた幹部、学園祭全体の土台を支える仕事をやってくれた3年次生、様々な企画を担当し学園祭を盛り上げるのに働いてくれた2年次生、1年次生。このどれが抜けても学園祭が成功になることはなかったと思います。本当にお疲れさま、そしてありがとう。

私は実行委員長になり改めていろんな人に支えてもらっていることを実感しました。特に部活の仲間は差し入れを持ってきてくれたり、いろいろ融通を利かせてくれたり、私が学園祭以外の悩みを持たないような環境を作ってくれました。又、悩んだ時は先輩に相談に乗ってもらったり、学生課の方々、施

設課の方々には毎日とっていいぐらい話をしにいき1つ1つ許可をもらいにいったりと言いついたらきりがないくらい色々な人に助けてもらいました。人は1人では生きていけないと改めて思った3年間でした。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。又、実行委員に入り多くの仲間ができ、その中で私は人間関係について多くのことを学びました。プライベートでも仲の良い仲間も沢山でき、実行委員に入って本当によかったと言えます。1年次生の時、実行委員会に入るという道を選ばなかったら、学祭のことで悩むこともなかったと思いますが、入ったからこそ密な3年間を過ごせ、自分自身成長出来たのかと思います。今の後輩たちにもこの気持ちを味わって欲しいと思っています。思い起こせば私の実行委員としての始まりは1年次生の時バレー部に入り、男子バレー部から下宿している1人を実行委員会に入れるという決まりがあり、同学年で下宿をしているのが私を含め2人で、私以外のもう1人はおそらく部活で追々キャプテンになるであろう人物であり、部活の先輩に実行委員は楽しいし友達もたくさんできるよといわれていたこともあって、ノリで「じゃ、やります。」と言ったのが始まりでした。こんな始まりでしたが、この一言がなかったら今のこの充実感は無かったと思います。

『実行』を引退した今、苦しかったこともたくさんありましたが『実行』に入れてもらったことで得られたものがたくさんありました。『実行』で3年間お世話になった先輩方、無計画な実行委員長についてきてくれた3年次生、後輩達には感謝してもしきれない気持ちです。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、2008年度京葉祭の開催にあたり、ご理解、ご協力を頂きました全ての関係者ならびに家族、近隣住民の皆様に、深く感謝すると共に厚く御礼申し上げます。

京葉祭実行委員を3年続けて

京葉祭文化部長 3年次生 久保 美和

大学に入学して間もない頃に部活の先輩に勧誘され、あまり深く考えることなく入ったのが京葉祭実行委員会でした。何も知らずにただ先輩について仕事を見ていた1年次生のころは、本当にすべてが手探り状態でしたが、周りにはいつも私たち1年次生のことを気にかけてくれるたくさんの先輩がいてくれたので、眠さとの戦いは常にありましたが、毎日楽しく過ごせました。当時はぼやっと考えているくらいでしたが、今から振り返ってみると、そんな風に送ってきた日々で部活を超えた新しい縦、横の繋がりをもてたことが、どんなに貴重なことかと改めて思います。

そうこうしているうちに2年次生になり、新入生を勧誘したとき、去年自分が見てきた尊敬できるような先輩になれるように頑張らないと、と思っていましたが、これがなかなか大変でした。2年次生になると仕事の責任が全て自分にかかってくるので1年次生の頃のようにのんきにただ楽しいという言葉だけでやっているわけにはいかなかったのです。そんな責任感を感じることがよくあったのですが、先輩はみんな本当にかわいくて、しっかりしていて、よく頑張ってくれる子ばかりだったので、そんな先輩たちにいつも支えられ、無事に仕事を終えられました。また私は軽音楽部に所属しているので、軽音楽部の枠から『実行』に入りました。そのため他の部活からの子たちとは違い、企画に委員として入っているわけではなく、音響委員という立場から色々な企画に参加していました。これにより、1つの企画を部活や学年の違うメンバーでやり遂げる、というものには入っていきませんでした。複数の企画の人たちと一緒に仕事をすることができました。部活の違う人などとは特にこういう機会でもなければ毎日一緒に一生懸命何かに取り組むことなどなかっただろう、そしてそれによって今もなお特別に思えるような信頼関係を築けることもなかっただろうと思います。

こういった特別な関係は3年次生になるとさらに増え、また深くなりました。他にも実行委員会で一番上の学年になったことで、仕事の内容は大きく変わり、それに従って接する対象は学生だけではなくなりました。学祭をつくるのには本当にたくさんの人の協力、助けがいくことも改めて実感しました。特に私は学生課の方々には本当にお世話になりました。学生課の方々には、失敗しても、どんなに迷惑をかけても、いつもにこやかに対応してくださったので、仕事をしながらパワーをもらうこともよくありました。

また、3年次生になってからは、実行委員の仲間

をはじめ、自分のことを気にかけてくれ、支えてくれる周りのすべての人に、いつも笑顔で接したいという思いが本当に強くなりました。自分の思いが強くなった分、1、2年次生のころのよりはずっとできるようになりましたが、これは本当に難しいことでした。自分が一步一步前に進むにつれて、同じ道を進んでいった先輩方を本当にすごい人たちだと心の底から思いました。私の見てきた先輩方はつらい顔など本当に一度も見せることなくいつも笑って私たちに接してくれた上によく気にかけてくれ、仕事もきちんとこなしてこられたからです。自分がそんな先輩方のようにできたかといわれると、きっと足元にも及ばないと思いますが、そんな先輩方に出会えることができ、一緒に仕事をするのができたことは本当に嬉しいことだったな、と3年目にしてよくよく思いました。この先輩方への尊敬の気持ちはまた、今年一緒に実行委員をやってきたみんなに対しても同じように抱いています。本当に素敵なメンバーで、みんなへは感謝の気持ちでいっぱいです。

私は『実行』で過ごした3年間で多くのかけがえないものを手にし、たくさんのことを学びました。このすべてが、この先一社会人として生きてゆく上で必要なことであり、さらに自分自身の人格形成などにつながるようなことだと思っています。この特別な思い出をいつまでも忘れず、将来の自分に繋げられるように、これからも一生懸命生きていきたいと思っています。

京葉祭2008を終えて・・・

京葉祭実行委員 2年次生 安行 美智

今年の京葉祭が終わり、私は『実行』に入って良かったと改めて感じました。1年次生の時は、普通ならば、知り合ってもいないだろう、他のクラスや部活などの友達や、先輩方と知り合えた事が本当に良かったと思えました。実際、私は、去年部活からほぼ強制的に『実行』に入りました。その時は、『実行』というものが、どういうものなのかも分からず、指示された事をするだけでした。各企画の企画員となって、準備期間中は自分の企画の仕事をただ終わらせれば良いと思っていて、特にやりがいなども全く感じていませんでした。ただ友達と毎晩のようにしゃべったり遊んだりする事だけが楽しいと思っていました。

2年次生になって、今年の京葉祭では、先輩方・同年次生に加え、新たにたくさんの後輩とも知り合えて、その仲間で一緒に協力して、京葉祭を作りあげていく事ができた事が、とても良かったと思えました。

今年、私は、有志のダンス企画の企画長をしまし

京菓祭を終えて・・・

京菓祭実行委員 2年次生 松尾 恭子

た。ステージ企画がやりたいと思っていて、ステージで自分の企画を作っていけるのが嬉しくて、きっといいステージにして成功させたいという気持ちでした。後期、本格的に企画の内容も決まり、実際準備を進めていくと、始めの頃は、本番への期待と同時に、自分にやりきれぬのかという不安が出てきました。他の人がやったらもっと良い企画になるのではないかと、失敗しないかなど色々と考えたりもしました。しかし、それは、私が企画を作っていかなければならないと思い過ぎていただけでした。私1人でやるのではなくて、副企画長や、企画員の1年次生、音響の人、そして司会者さんと皆と一緒に作りあげていくものだと思ってきました。それから、あまり不安を感じずに毎日やっていけました。

企画本番は、やはり少し緊張しました。私は前に座ってカンペを出している事しかできないのですが、企画員の人達は誘導など役割をきっちりこなしてくれたので、安心して企画を見ている事ができました。ダンスを見ている余裕もあって、とても楽しい時間だ感じていました。企画が終わった時には、安心と達成感と開放感など様々な思いでいっぱいでした。企画に関わった皆様にとっても感謝しています。

実行委員として、やるべき事は、企画だけではなく、準備から後片付けまで、多くの事がありました。それらも先輩方をはじめ、同年次の友達や、後輩と協力しあって行う事ができたと思います。

たくさんの頼れる先輩方にも色々とお世話になりました。また、しんどい時や辛いと思う事も、もちろんありましたが、そんな時は、同年次の友達と相談に乗ってもらったり、励ましあうことができました。仲もより一層深くなったと思います。いつもはバカな事をしたり、話したりしている友達ですが、『実行』以外でも一緒にいて、楽しく過ごせる仲間、みんな大好きです。そんな仲間ができた事が、一番良かったです。ただ、『実行』で忙しい間、部活やクラスの友達には、気を遣わせてしまったのではないかと思います、反省しています。

来年は、3年次生として、『実行』では一番上の学年となり、京菓祭を行う上で土台となる役割であると思います。同年次生とは、今年以上に皆で助けあってやっていきたいと思っています。また、私が今年、先輩方を頼りにしていたように、今年の経験を活かして、後輩が頼りにできる先輩になれたらと思います。そして、来年京菓祭が終わった時には、今年よりも、もっと仲のいい仲間になって、最高の思い出になっていたらと思います。

先日、11/1～3に京菓祭がありました。今回はKPUNewsに文章を載せる機会を頂いたので、実行委員の1人として、これまでを振り返ってみたいと思います。

まず私は、1年次生の春に勧誘を受けて「京菓祭実行委員会」に入りました。高校時代、学園祭が盛んな学校ではなかったので、生まれて初めて学園祭を創る側となりました。

1年次生のときは組織の一番下だったので、先輩に言われたことをひたすらやるだけで、当日になるまで全体像は見えにくかったです。でも別にそれが苦だったわけではなく、夜みんなでワイワイ作業する楽しさや、先輩の優しさのおかげで、やめようと思ったことはありませんでした。部活やクラス以外で友達や知り合いができたのも『実行』のおかげです。

そして学祭が終わってから1ヵ月経った12月半ばから、次の学祭に向けて動き出しました。その日、私は新企画の企画長となりました。名前の通り新しい企画で、何も資料はありませんでした。先輩からも「自由にやってくれていいから!」「やりたいことやったらいいよ」と言われ、初めて企画書を提出する4月まで、幾度となく悩みました。正直私はゼロから始める、ということが得意ではありません。時間も場所も内容もすべて自由にしていっていいと言われると、頭が真っ白になって、自分が企画長でいいのかすごく悩んだり、色んな人に相談を持ち掛けたりしていました。結局やってみたいと思うことをいくつか絞って企画書にまとめましたが、その時はまだ企画員の1年次生も決まっていなかったし、実は部活の都合などで、副企画長の子としっかり話し合うことができておらず、本当に手探り状態で、不安なども多少感じていました。でも時間が止まることなく漠然とした不安が消えないまま夏休みへと入ってしまいました。

とはいえ『実行』が本格的に忙しくなるのは後期からです。前期の間に企画内容は決めていたので、後期はそれを具象化していくのが主な仕事でした。私の頭の中ではうまくいっても実際形にしようとするとうまくいかないこともありましたが、企画のメンバー全員で考えながら進めたので、前期に感じていた不安はいつしか消えていて、当日まで楽しく作業できました。

本番も大きなトラブルはなく、他の企画もみんな成功していたし、お客様もいっぱいいたし、大成功だったと思います。

さて、せっかくこういう機会を頂いたので、お世話になった方々へメッセージを宛てたいと思います。

す。企画のみんなへ。自分のワガママを詰め込んだ企画なのに、ついてきてくれて本当に感謝しています。毎日遅くまで縛りつけてしまったし、苦労を沢山させたと思います。ありがとうございました。幹部の皆様ならびに3年次生の先輩方へ。私のワガママに逐一付き合って、温かい目で見てくださいありがとうございます。頼りになる先輩で良かったです。平良さんへ。お疲れ様でした。たまに怒らせてすみません。部活でも『実行』でも迷惑掛けましたが、平良さんが実行委員長で良かったと思います。バケツをかぶせられたこと忘れません。我らが庶務へ。がんばれ。同年次のみんなへ。来年もこのメンバーで楽しくやりたいです。友達がいなかったらこまでこれなかったと思います。部活のみなさまやクラスのみなさまへ。危なっかしい奴ですみません。精進します。お父さん、お母さんへ。心配ばかりさせてごめん。これからもよろしくね。

本当に『実行』をやっていなければ全く違う大学生活になっていたと思います。大変なこともあるけれど、今しかできないことだと思うので、精一杯楽しみたいと思います。またすぐ来年に向けてスタートすることになるでしょう。その時は、私たちの代が一番上になります。責任も感じますが、今からとてもワクワクします。来年もいい京葉祭を創りたいと思うので、宜しくお願いします!!



準備の様子



模擬店



福引



コンテスト



カラオケ



1年次生のダンス

ドイツ滞在記 –「日本人学生のためのサマープログラム」を体験して–

2008年8月2日から29日までの約1ヶ月間、ドイツのフライブルク大学国際局が主催する「日本人学生のためのサマープログラム」が開催され、本学からも2年次生を中心に20名の学生諸君が参加した。今年はミュンヘン・ノイシュヴァンシュタイン城へのバス旅行が追加されたこともあり、締め切り前に定員に達して申し込みが受け付けてもらえないような事態が続出するほどの盛況ぶりだった。数あるドイツの総合大学の中で日本人を対象としたドイツ語夏期講座を開講しているのはフライブルク大学だけだ。今回の夏期講座に参加した2年次生の人たちに、「異文化体験」というテーマでドイツでの体験や思い出を投稿してもらった。参加料金も格安（授業料+寮費で800ユーロ）、各週末にはフランス・スイスへのバス旅行やドイツ文化を直接体験できる午後のプログラム、本学の学生だけを対象としたフライブルク大学薬学部や市内の薬局見学など充実した催し物も用意されている。体験談を読んで関心を持った方は6号館桑形研究室までお気軽に。

ドイツでの日々

2年次生 長井 啓美

ドイツに行き、得たものは数えきれないくらいあります。私がドイツ留学を決めた理由は今しかできないことをしたい、色々な経験をして自分の考えを広げたいと思ったからです。行く前は言葉の通じない国で1ヶ月ちゃんと生活できるのかと不安に思っていました。しかしそんな不安も周りの支えてくれる人達のおかげで、日本に帰るときには飛行機の中で帰りたくないと思うほどでした。

ドイツでの生活は午前中にドイツ語の授業、午後からはレクリエーションでした。授業は、日常会話を中心に練習し、またドイツの生活習慣などについて勉強しました。クラスでドイツ料理を食べに行き、先生の話聞いてドイツに更に興味を持ちました。レクリエーションではサッカー観戦、スイスへの遠足、ワイン祭り、薬学部見学など色々なことを体験しました。ドイツの薬学部は1年生から分子を作ったり、自分でしたい研究をしたりと日本とは全く違うもので驚くと同時に尊敬しました。

私の寮は、ドイツ人やポーランド人、韓国人、スペイン人など多国籍の寮でした。最初はみんなの中に入るのに抵抗がありました。しかしルームメイトはみんな親切で簡単な英語や手ぶりでキッチンを使い方や寮の決まりなどを丁寧に教えてくれました。またルームメイトがドイツ料理を作ってくれ、私たちは肉じゃがを作り、みんなで食べたのも良い思い出です。ドイツではルームメイトを始めとして素敵な出会いがたくさんありました。街で出会うドイツ人も親切な人が多く、陽気な人柄でした。私は日本人コースで行ったので日本の他の大学から来ている人との出会いもありました。みんなそれぞれ夢を

持って来ていて、共同生活を通じて相手を思いやることをこれまで以上に感じ、みんなから刺激をもらい前向きな気持ちになりました。小さいことに悩み、落ち込んでいるのが馬鹿らしくなり、ドイツで出会った人たちのように相手に良い影響を与えられるような人になりたいと思いました。ドイツから帰ったあともみんなで集まれる仲になったことを嬉しく思い、人の出会いは本当に素敵だと感じました。支えてくれた友達やドイツで仲良くなった人、ドイツで出会ったすべての人に感謝し、この経験を生かしていきたいと思います。私はドイツに行く前は、薬剤師として特に具体的な夢を描いていませんでしたが、ドイツに行き、人との出会いを大切できるような薬剤師になりたい、人との関わりを持ちながら働きたいと自分の夢が少しはっきりしたような気がします。ドイツに行き、1ヶ月過ごせたことを本当に嬉しく思います。



サッカー観戦

この夏休みは一生の思い出になりました。初めての海外、1か月とはいえ初めての一人暮らしと、何もかもが初めてでしたが、毎日普通に生活していても新たな発見があり、不安を感じることは全くありませんでした。

楽しいことはたくさんありましたが、私のドイツでの一番の思い出は毎日のドイツ語の授業です。私のクラスの担任の先生は日本語が全く喋れず、授業は基本ドイツ語で進みました。これは予想外でした。先生はゆっくりと話してはくれましたが、週1の授業を受けているだけの私にはドイツ語の細かい知識もないし、単語力もありません。最初は授業の内容がさっぱりわかりませんでしたが、それでも楽しい授業でした。カフェでの注文の仕方を勉強した日は、早速実践練習として先生が大学近くのカフェに連れて行ってくれて御馳走してもらったり。道の尋ね方を勉強した日は、授業中に突然ヒントだけが書かれた紙を渡され、今から街で道を尋ねて答えの写真を撮って来るようにという課題をだされて街中を歩き回ったり。ゲームをしながら文法や単語を勉強するという授業も多く、3週目頃には先生の話すことだけは大体理解できるようになりました。正直言うと、私はドイツ語の勉強がしたいからではなく、他の国にも行けるというところに魅かれてこのプログラムに参加したのですが、クラスにはドイツ語を専門に勉強している人が何人もいたので、刺激を受けることも多く、もっとドイツのことを知りたいと思うようになりました。

フライブルクは想像していた以上に美しい町でした。特にミュンスターは歴史を感じるもので、外観はもちろんステンドグラスがとても綺麗でした。ここでは毎週パイプオルガンのコンサートが行われています。私も観に行きましたが、歴史のつまったミュンスターの雰囲気とパイプオルガンの音がすごく調和していて、その場にいるだけで心が洗われるような気がしました。

たった1か月しかいなかったのに、日本に帰って来て3か月が経った今でも、「また行きたい」というより「帰りたい」と思ってしまう。それほどフライブルクは素敵な街でした。このままずっと住みたい！と本気で思いました。3年次生からはドイツ語の授業はなくなってしまうのですが、今後も自分でドイツ語の勉強を続けて、またいつか絶対にフライブルクを訪れたいと思います。もし今、来年ドイツに行こうか悩んでいる人がいたら絶対に行くべきです！！本当に楽しくて充実した1か月になりますよ！！



修了証書をもらう時にクラス全員先生とツーショットを撮りました！



ミュンスターのパイプオルガンです。



フランスには馬車もありました。

フライブルク大学夏期講座体験談
2年次生 西田 紫乃

今、少しでもドイツに興味がある人がいたらぜひフライブルクに行ってみて!!って言えるくらい、毎日が充実していて楽しかったです。

私は今まで1人で海外に行ったこともないし、英語もできるわけでもなかったのので、ドイツに着くまですごく不安でした。でも、そんな不安も1日でなくなりました。

フライブルクは聞いていた以上にいい町で、MÜNSTERと言われているステンドグラスの綺麗な大聖堂、かわいい新市庁舎など建物やメガネの形、パンの形に描かれている石畳がとてもすてきです。また、大聖堂のまわりの広場には、お昼になると市場がいっぱい建ちます。お花や野菜、木のおもちゃ、長いソーセージをはさんであるホットドック、ワッフルなどいろんなものが売られてました。



新市長舎



フライブルクのミュンスター

授業では文法も少しはしますが、基本的には会話中心で、レストランに行ったときの会話や道の聞き方など授業が終わったらすぐ使いたくなるような内容です。実際に私は授業の後、スーパーやお店に行き習った言葉を使って会話をするようにしていました。初めはお店の人が何を話しているのか全く分らなかったのですが、日が増すにつれて話している内容が少しずつ分かるようになり、メニューも知っている単語が増えて、料理に何が入っているのかわかるようになりました。自分の知っていることが増えていく事がすごく嬉しかったです。



ビール（ドイツのビアガーデンにて）



ミュンヘンで有名！白いソーセージ

午前中にしか授業がないので、近いところには昼から電車に乗って行くこともできます。向こうのチューターさんが計画してくれたレクリエーションに参加をして、サッカーを見に行ったり、ワインのお祭りに行ったりしました。もちろん、友達同士で電車に乗って行くこともできます。私は、友達と電車で40分くらいのところにあるTiti湖や、スイスのバーゼルという町に行ったりして楽しんでいました。



Titi湖

後半くらいになるとドイツの生活に慣れてくるので、土、日を使って遠出もしました。フライブルクの町はフランス、スイスに近いので1日あれば行くことができます。なので、パリに旅行したり、ドイツのミュンヘンに観光しに行ったりしていました。いろいろなところに行くことで、現地の人たちと電車の中で話すことができました。また私たちが困っていると優しく話しかけてくれて助けてくれました。すごくあったかかったです。

1ヶ月という短い期間ですが、考え方や価値観が少し変わったように思います。楽しいのはもちろんですが、たくさんの経験ができることがすごくいいと思いました。

秋のオープンキャンパス開催

入試課

11月2日（日）に秋のオープンキャンパスを開催しました。

今回は、高校生および付添者等合わせて、昨年を15名上回る298名の参加者があり、無事、盛会裏に終えることができました。

半日のスケジュールで、愛学館のA21講義室での「学長挨拶」、「大学紹介」、「在学生の話」、「卒業生の話」の後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

「在学生の話」では、3年次生の吉藤佑介さんに大学生活やクラブ、サークル活動等についてお話をいただきました。参加者からは、「学生生活がよくわかった」、「大学の楽しさが伝わってきた」などの感想がありました。「卒業生の話」では、大津赤十字病院に勤務されている光家勉先生をお招きして、本学での思い出や現在の仕事に本学で学んだことがどのように活かされているか、本学の魅力、本学に在籍することのメリット、薬剤師の仕事内容などをわかりやすくお話いただきました。参加者から

は、「薬剤師の仕事内容がよくわかった」、「就職先での京都薬科大学の評価や学んだことが実際にどのように活かされているかがとてもよくわかり、参考になった」などの感想が多く寄せられ、たいへん好評でした。

「施設見学」は、臨床薬学教育研究センター、愛学館と8号館の研究室で行われ、約150名の方にご参加いただきました。参加者からは、「各施設の内容をととてもわかりやすく説明していただいたので、よく理解できた」、「施設が新しく清潔なので、とても気持ちがよかった」などの感想をいただきました。

愛学館2階A24自習室での「相談会」には、42名の相談者がありました。相談内容は、入学試験や学費、奨学金、進路、カリキュラム、研究などで、高校生、付添者とともにとても熱心な姿が印象的でした。

今後ともオープンキャンパスをより一層充実していきたいと思っておりますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



在学生の話



卒業生の話



施設見学



相談会

2008年度後期試験日程

教務部 教務課

シラバスにも一部掲載しておりますが、2008年度後期の試験日程は下表のとおりです。

また、再試験受験手続について、例年手続きが遅れる学生が見受けられます。日程等（再試験手続の詳細は後日掲示で連絡します）よく確認しておいてください。

「再試験受験許可書・領収書」については、再試験を受験する際に必要です。手続後、再試験受験時まで紛失しないよう大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行をしますので申し出てください。

《後期試験等日程表》

年次	試 験	試験期間	合格発表	手続等
4	薬学特別演習 正規試験	1月 8日（木） 1月 9日（金）	1月22日（木）に 発表（予定）	
	薬学特別演習 再試験	2月 5日（木） 2月 6日（金）	卒業査定会[2/25(水)] まで発表しません	1月22日（木） 1月23日（金）
1～3	後期試験	1月13日（火）～ 1月21日（水）	2月5日（木）に発表	
	後期科目再試験	2月12日（木）～ 2月19日（木）	進級査定会[3/13(金)] まで発表しません	後期試験の合格発表期間 を「再試験受験願」受付日 とします [2/5(木)・2/6(金)]

定期試験合格発表方法および進級・卒業査定結果発表方法変更のお知らせ

教務部長

学内試験制度の実施・運営について見直しを行い、2008年度後期から下記のとおり変更して行うことになりましたのでお知らせいたします。不明な点については教務課へお問い合わせください。

記

【定期試験合格発表方法】（4年制4年次生「薬学特別演習」を含む）

◆合格発表日に個別に「成績通知書」を教務課窓口で配付。

【進級・卒業査定結果発表方法】

◆進級、卒業査定会終了後に、学生相談員・分野主任から「成績通知書」を配付。

＜備考＞

- ・成績通知書の「代理受取」はできません。必ず学生本人が受け取ってください。
- ・成績通知書の受取時には「学生証」が必要です。
- ・試験結果および査定結果に関する「電話での問い合わせ」はできません。

以上

教育後援会からのお知らせ

2008年度の教育後援会総会が10月3日（金）13時30分よりA31講義室に於いて開催されました。

宮秋会長、田村理事長の挨拶があり、西野学長からは「大学の近況紹介」が行われました。

その後、議事に移り、2007年度の決算報告に続き2008年度事業計画ならびに予算（2008年10月1日～2009年9月30日）が下記のとおり承認されました。

また、新4年次生に対して、今後継続的に「治療薬マニュアル」を贈呈することになりました。

議事後、2007年度教育賞（学生の教育に多大な貢献をし、その資質向上に功績のあった教員に贈られる）の表彰式が行われ、受賞者である今井准教授（一般教育）に、宮秋会長から表彰状ならびに副賞が贈られました。

休憩の後、進路支援部長の後藤教授から「学生への進路支援」について説明が行われ、最後に北出副会長より閉会の挨拶があり盛会裏に終了しました。

（単位：円）

項 目	予 算 額	使 途
学生生活支援事業	1,800,000	学生教育研究災害傷害保険料補助（6年間分）
	200,000	保険適用外初診料補助（上記保険適用外の初回治療費を補助）
	1,500,000	学生補助金（学生自治会の意見を聴取、要望に対して柔軟に補助）
	1,000,000	卒業記念品（教育後援会名で、卒業生個々に記念品を贈呈）
	600,000	卒業祝賀会協賛（卒業生ご父母にご参加頂くため、京薬会に協賛）
	150,000	弔慰金（学生及びそのご父母に対して支給）
	1,500,000	学部生英語受講料補助（学部生を対象に、学内で開講する英語課外講座の受講料の一部を、1人当たり15千円を限度に補助）
	200,000	一般図書の寄贈（専門図書を除く）
小 計	6,950,000	
父母対象事業	300,000	会合費・事務費・郵送料
	1,100,000	KPUNews発送料
小 計	1,400,000	
教育研究支援事業	2,100,000	「治療薬マニュアル」 2009年度の4年次生用 参考書代
	210,000	教育賞（賞金・記念品代）
小計	2,310,000	
予備費	140,000	
支出合計	10,800,000	

貸し傘の寄贈について

2007年度の事業として貸し傘を200本寄贈いたしました。

本校地は学生課、南校地は入試課にて貸し出しをしておりますので、急な雨の場合はご利用ください。

学生用図書（後期）の購入

2008年度の学生用図書後期分を次のとおりに購入いたしましたので、ご利用下さい。

書 名	著 者 名 / 出 版 社
ICP発光分析・ICP質量分析の基礎と実際：装置を使いこなすため	日本分析化学会関東支部編 / オーム社
オーダーメイド医療をめざした生活習慣病の遺伝子診断ガイド	山崎義光著 / 日本医事新報社
画像診断装置学入門	木村雄治著 / コロナ社
栄養の基本がわかる図解事典	中村丁次監修 / 成美堂出版
ラーセン最新人体発生学 第2版, 学生版	William J. Larsen著, 相川英三 [ほか] 監訳 / 西村書店
分子糖尿病学の進歩	門脇孝 [ほか] 編集 / 金原出版
医科細菌学 改訂第4版	笹川千尋, 林哲也編集 / 南江堂
数学いらずの医科統計学	Harvey Motulsky [著], 木山秀哉 [ほか] 訳 / メディカル・サイエンス・インターナショナル
外来がん化学療法のためのおくすり説明書	遠藤一司監修, 国立がんセンター東病院薬剤部編 / 薬事新報社
服薬指導のリスクマネジメント：ヒヤリハット事例に学ぶ 2	沢田康文著 / 日経BP社
薬剤師のための徹底リスクマネジメント 2	沢田康文監修, 医薬品ライフタイムマネジメントセンター編集 / 南山堂
分子細胞生物学辞典 第2版	村松正実 [ほか] 編集 / 東京化学同人
薬学のための物理学	宇野正宏著 / 愛智出版
演習で理解する基礎物理学	御法川幸雄, 新居毅人著 / 共立出版
ゼロから学ぶ線形代数	小島寛之著 / 講談社
らくらく図解統計分析教室	菅民郎著 / オーム社
生と死を考える：「死生学入門」金沢大学講義集	細見博志編 / 北國新聞社
幸福論(イデー選書)	アラン [著], 串田孫一 [ほか] 訳 / 白水社
医療情報サブノート	日本医療情報学会医療情報技師育成部会編集 / 篠原出版新社
医療情報収集のためのGoogle活用ガイド	丸山康孝著, 村瀬澄夫監修 / 中山書店
DNAとRNA (図解雑学)	岡村友之著 / ナツメ社

他 全67冊

書名リストは、図書館ホームページ (<http://libopac.kyoto-phu.ac.jp>) をご覧下さい。

図書館開館日程

1月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27		29	30	31

2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

太字が休館日です。

臨時に休館する事がありますので、図書館掲示板で確認して下さい。

受賞

教育賞受賞のご挨拶



基礎科学系
一般教育分野
准教授 今井 千壽

朱牟田夏雄氏著『翻訳の常識』という本の冒頭、旧制・第一高等学校のドイツ語担当教授にまつわる伝説的な逸話が紹介されています。

何十年も昔の授業のことです。先生は新生入生にいきなり難しい原書を読ませるのですが、ドイツ語など何も知らない生徒ばかりですから、当然できるわけありません。すると、「こんな怠け者のクラスには教えん。」と一喝し、先生は教室を出て行ってしまう。後に残された生徒たちは、必死で上級生に教えるを請い、何とか最初の1、2ページを読めるようにして学校に行きます。ところが、次の授業では動詞の活用を聞かれ、立ち往生です。またしても、「こんな怠け者のクラスには教えん。」と大音声。そこで上級生に頼んで活用を習い・・・と一年間同じようなことが繰り返された結果、生徒たちは、ほとんど先生から教わることなく、ほぼ自力でドイツ語を覚えたのだそうです。

まさに冗談のような話で、当時とは様々な面で状況の異なる今日、このように無茶な授業は絶対にあり得ないでしょう。しかし、それにもかかわらず、この教授法にも一顧の価値はあると朱牟田氏は指摘しています。結果的に学ぶ側の自発的努力が強いられ、効果を挙げたからです。

「自発的努力」とは、いつの時代においても、勉強の根幹をなすものです。これが欠けている場合は、あまり意味がないのではないのでしょうか。学生の皆さんには、学ぶ主体は自分であるという意識をもって、受動的態度に終始することなく、自ら積極的に授業に取り組み、できれば、興味の幅を広げて、さらに授業外でも勉強しようという気持ちになってもらいたい。そして、それを促すことが、教師の重要な務めであろうと考えます。どのような授業をすればよいのか悩みながら、いまだ五里霧中の状態ですが、答えを見出すべく試行錯誤を続けて参りたいと思っています。

この度2007年度教育後援会教育賞を拝受いたしました。皆様に心より御礼を申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

木曾良明教授が 国際賞(Akabori Memorial Award) 受賞

2008年10月、本学薬品化学分野の木曾良明教授が、ペプチド科学・ケミカルバイオロジー分野の研究における多大な功績を讃えられ、2008年度Akabori Memorial Awardを受賞しました。

同賞は、日本のペプチド研究だけでなく、タンパク質生化学、ケミカルバイオロジー研究においても先駆的存在である故赤堀四郎 大阪大学名誉教授(元大阪大学総長・蛋白質研究所所長、学士院賞、文化勲章受賞)の多大な貢献を記念して、2000年に日本ペプチド学会により創設されました。アメリカペプチド学会のMerrifield Award、ヨーロッパペプチド学会のJosef Rudinger Memorial Lecture Awardとならび称される権威ある国際賞であり、過去の受賞者は、ドイツ、日本、オーストラリア、フランスの研究者で、日本人としては木曾教授が2人目となります(受賞者選出は隔年)。

今回の受賞は、木曾教授のアビジン-ビオチン法の開発や、レニン、HIVプロテアーゼなどをはじめとするプロテアーゼ阻害剤の開発、加えて、最近の*μ*-アシルイソペプチドを用いたクリックペプチドの研究など、広範にわたるペプチド科学・ケミカルバイオロジー研究、さらにはエイズやアルツハイマー病に対する創薬への貢献が高く評価されたものです。



表彰式での木曾教授



授与された記念メダル

薬品化学分野の共同研究論文が Chemical Biology & Drug Design誌の 表紙を飾る

薬品化学分野の木曾教授らと米国ジョーンズホプキンス大学のFreire教授の共同研究の成果が、Chemical Biology & Drug Design誌(2008年72巻1号)の表紙に掲載されました。コロナウイルスはヒトや動物に感染して呼吸器系や肝臓、小腸、中枢神経系の疾患を引き起こす病原性ウイルスですが、相同性の高いキモトリピン様プロテアーゼ(3CL^{pro})と呼ばれる固有のシステインプロテアーゼをもっています。本研究ではSARS(重症急性呼吸器症候群)コロナウイルスの3CL^{pro}に着目して、ハロメチルケトン誘導体が強力な阻害剤であることを見出しました。また、ヒトのシステインプロテアーゼに作用し難い選択的な阻害剤であることも分かり、X線結晶構造解析と熱力学的解析からその結合様式を明らかにしました。この研究成果は、SARSウイルスのみでなくコロナウイルスのファミリー全体に有効な広域の抗ウイルス剤の開発に繋がると期待されます。

Development of Broad-Spectrum Halomethyl Ketone Inhibitors Against Coronavirus Main Protease 3CL^{pro}. U. Bacha, J. Barrila, S. B. Gabelli, Y. Kiso, L. M. Amzel and E. Freire. *Chem Biol Drug Des* 2008, 72, 34-49



ク ラ ブ だ よ り

陸上競技部

陸上競技部です。1年次生5名、2年次生16名の総勢21名で活動しています。12月に行われました学内駅伝は今年も私たち陸上競技部が中心となって準備し、運営させていただきました。大会は年に4回行われます。

活動実績 (2008年)

- 5月 全日本薬学生対抗陸上競技大会 (東京)
- 8月 関西薬学生対抗陸上競技大会 (新潟)
全日本医歯薬獣医大学対抗陸上競技大会 (東京)
- 10月 関西医歯薬科学生対抗陸上競技大会 (大阪)
- 12月 学内駅伝

今後の予定 (2009年)

- 3月 2009年クラブ始め
卒コン
- 5月 全日本薬学生対抗陸上競技大会 (京都 京都薬科大学陸上競技部が主幹)
- 8月 関西薬学生対抗陸上競技大会
全日本医歯薬獣医大学対抗陸上競技大会
- 10月 関西医歯薬科学生対抗陸上競技大会
幹部交代
- 12月 学内駅伝

予定は以上の通りです。今年は、私たち京都薬科大学陸上競技部が主幹を務めさせていただく大会もあり、忙しい年となりそうですが、部員全員で協力し、クラブ活動をさらに充実したものにしていきたいと考えています。今年もよろしくお願いします。

お 知 ら せ

京都薬科大学公開講座開催

2008年10月25日(土)愛学ホールにおいて第14回公開講座を開催いたしました。はじめに西野学長の挨拶があり、その後、「今や国民病～あなたもいつか花粉症になる?～」のテーマで、本学の河野教授による講演が行われました。花粉症のメカニズム、その予防法と治療法について図や写真を交えたわかりやすい話に、約120名の参加者は熱心に耳を傾けていました。また、来年春には今年とは比較にならないほどの大量のスギ花粉が飛散するとの予想に、会場からはどよめきが起きていました。

その後、場所を体育館に移し、健康科学分野と武田病院のスタッフによる「健康度チェック」やOBによる「くすりの相談」、本学の中田教授による「健康相談」のコーナーが設けられました。健康度チェックでは、それぞれのコーナーで順番待ちのところも出ていましたが、参加者は各コーナーを巡回しスタッフの熱心な説明に聞き入るなど大変好評でした。また今年から登場した新しい健康機器(乗馬フィットネス機器など)が並び、参加者の大きな関心を呼んでいました。

今年の参加者はリピーターも多く見られましたが、昨年に比して若い年齢層の参加者が見られ、健康に対する関心の広がりが見られました。本学での開催も11回目となり、「毎年秋には、薬大で公開講座があるので楽しみにしています」という声も耳にし、アンケートの中には「来年も楽しみにしています」や「年1回といわず2回、3回と開催して欲しい」などが多く、開かれた大学として地域に定着してきたことが感じられました。

2008年度「消防訓練」を実施

2008年11月6日（木）、本校地に於いて京都市山科消防署協力のもと、災害に対する意識および対応力の向上、また自衛消防組織各班の任務確認等を目的に、教職員や学生など約70名が参加して消防訓練を実施しました。

6号館3階631講義室から出火したとの想定で、午後3時に消防訓練を開始。自衛消防組織による初期消火、119番通報や学内連絡、避難誘導等の活動について、「調整連絡班」、「工作班」、「避難誘導班」、「警備班」、「救護班（今回は負傷者無しの想定で待機のみ）」に分かれて訓練を行いました。また、山科消防署消防隊の指導により、消火器の取扱いに関する説明および消火訓練、教職員による屋内消火栓を使った放水訓練も併せて行い、参加者は真剣な表情で取り組んでいました。

訓練終了後、西野学長（防災対策委員長）から、山科消防署に対する実施協力のお礼ならびに訓練の講評があり、また、山科消防署の仁木予防課長からは、「実際の災害時は、皆パニックに陥りマニュアル通りには対処できない。できるだけ冷静な判断や行動ができるよう、訓練等を通じて最低限必要な知識や心掛けを持ち合わせるようにして欲しい」との呼び掛けがありました。

今後も、学内防災意識の高揚ならびに災害対応力の更なる向上を図るため、定期的に訓練を実施して行きたいと考えています。

（施設課 星野：本校地防火管理者）



人事

退職

2008.12.31付

基礎科学系健康科学分野 講師 青戸 公一

京薬会だより

<公開講座>

河野教授の『今や国民病 ～あなたもいつか花粉症になる?～』の講演には、約120名の参加者があり、特に、例年に比べ30代の方の参加が目立ったことや初めての参加者が例年以上に多かったことから、花粉症に対する関心度の高さが伺われました。また、本公開講座の人気の1つである「健康チェック・体力測定」にも多数の方々がつめかけられ、大変好評を博しました。

<京薬祭（京薬会協賛）>

晩秋の山科を飾る京薬祭（11月1日～3日）が今年も盛大に開催され、京薬会から30万円の協賛金を学生自治会に提供しました。また、オープニングセレモニーにおいて、次のようなクラブ活動支援を行いました。

（1）クラブ活動支援費の配布

会長から学生自治会長へ支援金300万円を贈呈しました。なお、各クラブへは11月26日開催のキャップ会議において配布されました。

（2）活躍したクラブへの表彰

今年度優れた活動をした7クラブ（硬式庭球部、サッカー部、ソフトテニス部、バスケットボール部、バドミントン部、バレーボール部、ラグビー部）に対してそれぞれ表彰状とともに副賞3万円が会長から贈呈されました。

<駅伝大会>

恒例の各クラブや研究室、個人対抗の駅伝大会が12月6日（土）開催され、京薬会から20万円の協賛金が提供されました。また今回、駅伝大会における学生自治会の新たな取り組みである「ぜんざい会」（当日午後2時より愛学館食堂において500人分のぜんざいと飲み物を準備）に対して京薬会はその費用（約18万円）を協賛しました。

<薬事日報の閲覧>

京薬会事務局（愛学館7階）で薬事日報誌の閲覧ができますので、学内の方はぜひご利用ください。

京都薬科大学奨学金制度充実のための寄附のお願い

本学関係者の皆様

本学関係者の皆様には、平素から大学運営に多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本学は、2006年度から薬学部入学者は6年制になり、これに関連して2007年度には、長期の病院・薬局実習に対応するための事前実習施設として、臨床薬学教育研究センターを建設、さらに2008年11月から躬行館の建設に着工し、施設整備のための多額の設備投資を続けております。また、2010年度からは、長期に亘る病院・薬局実習のための多額の実習費支出を余儀なくされます。

このような厳しい経営環境の中にありましても、6年制移行により学費負担の増大する学生の修学を支援するため、本学奨学金制度の充実が急務であると考えております。

つきましては、学生に対する修学支援としての制度充実のため、ご寄附による資金的なご支援をお願いするものでございます。

ご寄附いただきました資金は、奨学寄附金として受け入れ、奨学基金に積み立てさせていただきます。なお、ご寄附いただきました方々は、年度ごとの寄附者名簿を作成し永久保存として保管してまいります。また、寄附者名をKPUNewsにも掲載させていただきます。

何卒、学生たちの修学支援のために、奨学寄附金へのご協力を賜りたくお願い申し上げます。

なお、卒業生の京薬会会員の皆様には、京薬会誌に寄附募集を掲載してお願いしております。

2008年12月

学校法人 京都薬科大学
理事長 田村 正昭

京都薬科大学
学長 西野 武志

【京都薬科大学寄附金募集要項】

1 目的

奨学金制度の充実

2 金額

一口 1万円（一口以上でお願いいたします。）

3 寄附金の使途

給費奨学金

4 担当・お問い合わせ場所

京都薬科大学 庶務課

〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5

TEL：（075）595-4600（代表）、（075）595-4608（庶務課直通）

※上記電話番号にご連絡いただきましたら、ご案内および振込用紙を郵送させていただきます。

2008年に寄附をお寄せいただいた方々

2008年は下記の方々から寄附をお寄せいただきました。学生たちの修学支援のための奨学寄附金として受け入れ、奨学基金に積み立てさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

＜卒業生・同期会の方々＞

石黒 博直 様（昭和32年卒）

五・五会 様（昭和32年卒）

洛楽会 様（昭和29年卒）

＜法人役員・教職員＞

武田 禮二（常任理事）

田村 正昭（理事長）

西野 武志（学長）

村澤 悟（事務局長）

* ご芳名のみ五十音順に掲載しております。 2008年12月5日現在